



代表 / 公認会計士 / 税理士

伊藤 史哉

神奈川県横浜市出身。早稲田大学在学時に公認会計士試験に合格する。卒業後、中央青山監査法人（現・あらた監査法人）に4年半勤務。その後、監査法人トーマツで6年間、中小・ベンチャー企業の上場監査や株式公開支援に努める。2009年1月に、アクア会計事務所を設立した。

誠実な仕事で信頼を築き上げ 無二の会計事務所を目指す！

中小・ベンチャー企業の会社設立から株式上場までを徹底サポートするアクア会計事務所。2009年1月の設立から、一社一社と真正面から向き合い、一步一步、着実に実績を積み上げている。そこには「企業と共に歩み、成長したい」と強く願う伊藤代表の情熱がある。

Company Data>>

**アクア会計事務所
伊藤史哉公認会計士・税理士事務所**

〒231-0011
神奈川県横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター 6F-A
TEL 045-438-8064
URL <http://aqua-cpa.biz>
MAIL info@aqua-cpa.biz

【事業内容】

- ・株式公開準備支援
- ・資金調達・資金繰り支援
- ・事業計画策定、予算管理制度構築
- ・内部統制整備
- ・管理会計、財務会計整備
- ・決算業務、内部監査業務、社内研修代行
- ・起業支援、税務顧問、記帳代行

4 大監査法人を経て独立

秋川 こちらは中小・ベンチャー企業を専門に、起業から上場まであらゆる経営支援をされているそうですね。伊藤代表が、公認会計士を目指されたきっかけというのは？

伊藤 私が初めてこの仕事を知ったのは、高校時代でした。私の母校である早稲田実業学校で公認会計士になられたOBの方が学校で説明会を開いてくださったんです。その時の話がとても印象に残っていたんですね。実際に、会計士の勉強をしようと思ったのは、大学に入ってからでした。所属していたサークル内で、周りに資格試験を受ける人が多かったのです。私も勉強を始めたのがき

かけだったんですよ。

秋川 日本の三大国家資格の1つですし、その当時は今よりも難しかったのではないですか。

伊藤 当時は、合格率が6.8%くらいでした。全力を尽くして勉強していたので、落ちても仕方がないという気持ちでしたが、幸いにも1回で合格できました。合格発表の掲示を見たときには、男泣きしましたよ（笑）。

秋川 喜びもひとしおだったでしょうね。そして念願の公認会計士の道へと。

伊藤 ええ。大学を卒業し、中央青山監査法人に4年半ほど勤めた後、監査法人トーマツに転職しました。

秋川 同じく業界屈指のトーマツに移られた理由とは？



伊藤 将来的に、やはり独立したいと思っていたからです。中央青山で働いていた時は上場企業や大手企業の仕事を担当していましたが、実際に独立するととなると、中小企業やベンチャー企業が主なお客様になりますからね。

私たちは主に監査証明、つまり財務諸表がその企業の経営成績や財政状態を適正に表しているかを監査し、その上で厳しい意見を言うのですが、大企業を相手にした監査においては、基本的に会社のシステムが出来上がっていることもあり、自身の意見を受け入れて頂くことが難しい場合もしばしばありました。しかし私は、クライアント様と同じ方向を向き、共に歩んでゆく形で仕事をしたいと強く思っていました。そんな時、幸運にも知人からトーマツの中小・ベンチャー企業の上場支援等を専門とする部署に誘われたのです。そしてトーマツで約6年勤務し、2009年1月に独立しました。

共に歩み、成長したい

秋川 景気低迷のさなか、思い切った決断でしたね。横浜で起業された理由は？

伊藤 地元で頑張っていられたいという思いからです。幸い、横浜は他の土地に比べると元気な企業が多いですからね。

独立するにあたって、従来の監査を中心としたサービスではなく、経営管理や株式公開のコンサルティング、あるいは

税務支援を中心に力を入れていきたいです。

秋川 なぜコンサルタント等にも力を入れようかと？

伊藤 さらに多岐にわたって企業様を支援していきたいと思ったからです。特に、中小・ベンチャーの世界ですと、独自の分野や領域で仕事をされている経営者がたくさんいらっしゃいます。私はそういう人たちの芽を潰さないことが大事だと思うんです。そのためには、一社一社をしっかりと把握する必要があります。経営者の方がこれまでどういうことをしてきた、今何を考え、これから何をしたいのか、どこへ向かって行きたいのか—事業の中身をしっかりと見ることが、我々の使命だと思うのです。

秋川 頼もしいです。伊藤代表にとって、このお仕事の醍醐味とは何ですか？

伊藤 企業様、そして経営者の方々と深く接し、苦楽を共にできることですね。そうしていくなかで、企業様と共に成長

していけると、とても嬉しいです。そのために精いっぱい誠実な仕事をして、信頼して頂けたら嬉しいです。

秋川 そこまで思ってもらえると安心ですね。ただ、企業の中核を見ていると、親身になりすぎて、第三者的な視点が失われるようなことはないですか？

伊藤 そうなることも起こりえます。親身になりすぎる理由は、2つ。1つは経営者の方と同じ立場になって考えなければいけないため。そしてもう1つは、事務所にとって、お客様一社一社の占める割合が大きくなり、経済的にも独立性が失われる可能性があるためです。しかし、そこは決して同化してはいけません。最後には必ず一線を引けるからこそ、私たちの存在意義があると思っています。

秋川 親身でありながらも、企業としっかり真正面から向き合うからこそ、適正な助言ができる。企業にとっても、そうした存在は頼りになるでしょう。

伊藤 はい。そういう存在であるためにも、日頃から経営者の方とコミュニケーションをこまめに取り、企業様が何をしようとしているかを把握し、その道へ進むとどうなりえるかを予測して、柔軟に物事をとらえながら、適宜アドバイスしていきます。そしてこれから、自分と志を共にし、価値観を共有して、互いに高め合える仲間を1人でも多く増やしていきたいと思っています。お客様と仲間と共に成長していくこと、それがひいては地域活性化の一助になれば、本望です。

Guest Comment>>

秋川 リサ（女優）



中小企業との付き合い方から、今後の経営方針までしっかりとしたビジョンを持たれている伊藤代表。景気が低迷している昨今でも「お付き合いしている企業様がピンチに瀕した時こそ支えになれば」とおっしゃった力強い言葉に、深く感銘を受けました。志が高く、企業との信頼関係を大切に、誠実に仕事されている姿が垣間見えた瞬間でした。